

Poco ZEFIRO

カトリック桂教会 広報紙

Vol. 14

2020年クリスマス号

編集・発行
カトリック
桂教会広報部



天使は言った。

『恐れるな。私は、民全体に与えられる大きな喜びを告げる』

クリスマスおめでと〜うございます。

担当司祭 アントニオ・カマチョ

イエス様の誕生日のお祝いが毎年行なわれますが、私たちのために、今、特に大きな意味があります。

COVID-19 (新型コロナウイルス感染症) のパンデミックがもたらす苦しみや、さまざまな課題が著しい今年でした。けれども、改めて天使は言います『恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる(ルカ2・10)。イエス様がお生まれになりました』と。光は暗闇の中で輝いている(ヨハネ1・5)。このパンデミックは光を理解しなかったり、受け容れなかったり、分かろうとしなかった。しかし、私たちはイエスの光をキリスト者として受け入れ、理解しました。

インマヌエル、『わたしたちとともにおられる神』が、傷ついた全人類の光となりますように。しばしばかたくなで利己主義に陥るわたしたちの心を和らげ、わたしたちを主の愛の道具としてくださいますように。わたしたちの頼りない寄り添いをおして、主が高齢の人や孤独

な人、移住者や疎外された人のそばにいてくださいますように。このお祝いの日、主がすべての人に優しさをもたらし、この世の闇を明るく照らしてくださいますように。

今年のクリスマスは桂教会の共同体と共に祝う事ができませんが、心の中でどうか皆様と共に交わりになりますように、と神様に願っています。やはり、どこに行っても教会は一つの体なのでイエス様の誕生日のお祝いをするようにしましょう!!

私がメキシコに帰国している間であっても皆様頑張ってください。新型コロナウイルスに負けないように協力してください。

良いクリスマスを迎えられるようにお祈りします。イエスの誕生の喜びが皆さまのうちにありますように。

新しい年が神様の祝福と恵みに満ちた年になりますよう、ご健康とご多幸をお祈り申し上げます。



『A Iの誕生』

担当司祭 一場 修

「A I」という言葉から、何を連想するだろうか。ほとんどの人は、「人工知能」(Artificial Intelligence)を思い浮かぶだろう。少子高齢化に加え、パンデミックといった困難を抱えている私たちは、「A I」の必要性、可能性を考えざるを得ない状況に置かれている。

しかし、ここで取り上げたいA Iは、「悶え苦しんでいる幼な子」(Agonizing Infant)である。私たちは、このA Iのことに思いを馳せたい。私たちのA I、それは、幼な子イエスである。

イエスが人間とられたのは、悶え苦しむためである。私たち人間は、様々な苦しみを抱えている。様々な問題や困難に直面して、悶え苦しんでいる。処理や解決できず、悶

え苦しんでいる。人工知能であるA Iは、私たち人間の問題や困難を解決するため存在する。悶え苦しむ幼な子であるA Iは、私たちと共に悶え苦しむために、人間とられた。



Infant のもともとの意味は、「まだ話すことができない」である。幼な子は、言葉を使うことができない。言葉でごまかすことができない。苦しみを言葉で言い表すことができない。ただ、苦しむだけである。ただ、泣くだけである。人工知能であるA Iは、私たちの苦しみや悲しみを、処理すべき課題として捉えるのだろうか。そして、言葉で回答を出すのだろうか。

人工知能であるA Iは、ビッグデータを活用して、将来を予測する。悶え苦しむ幼な子であるA Iは、小さな体で、すべてのいのちの苦しみを受け止める。黙って、苦しみのすべてを受け止める。そして、苦しみ、悲しむいのちと共に、未来に向かって歩み始める。処理や解決を目指すのではなく、ひたすら歩み続ける。

パンデミック下で、私たちは、主の降誕を迎える。悶え苦しむ幼な子の誕生を祝う。悶え苦しむ幼な子A Iを、救い主として、喜びのうちに迎える。



一場神父さまご紹介コーナー

今年初年から新型コロナウイルスに振り回されて、ご復活祭から京丹ブロックに転任してこられた一場神父さまを、広報紙でご紹介することが出来ていませんでした。

今更の感じですが、皆さんに一場神父さまを改めてご紹介したいと思います。

① 一場神父さまの略歴を教えてください。

群馬県出身、58才、マリスト会所属
二〇〇一年九月八日司祭叙階

② 少年時代はどのような家庭環境でしたか？教会との関わりはありましたか？

私の故郷は、群馬県の西北部でカトリック信者はゼロに等しい地域でした。家族は、兄二人、姉二人です。

③ 司祭を目指した動機は何でしたか？司祭になる、と決めた時のご家族の反応はどうでしたか？

奈良の天理大学に入学し、その時、キリスト教に出会い、カトリックに転会致しました。奈良

は、マリスト会が司牧していましたので、それが縁で、マリスト会に入会致しました。司祭を目指すと思った時の家族の反応ですが、よく分からないという感じでした。

④ 司祭になってよかったことは何でしたか？

何が大切か、何が真実かをいつも考えながら生きる事ができるようになったことです。他人の良いところは何かと考えて、関われるようになったことです。

⑤ 京都に来られた経緯は何でしたか？

マリスト会が京都教区で司牧していたからです。

神父さま、ありがとうございました。
これから、宜しくお願い致します。

